

非売品

サクソフォンの吹き方

ジャズ編

こじまやサックス教室 講師

小嶋 哲也

本格的にジャズを演奏したい方のために！

はじめに

ジャズを始めるにあたって一つだけ条件があるとすれば、それは

ジャズが好きで、楽しんで聴ける人 です。

私にとってジャズとは、会話だったり、デートだったり、口論だったり、掴み合いの喧嘩だったり、1対1の例えばかりですが、具体的に言えば、「リアルに聞こえてくるもの」対「自分」っていう感じです。

ジャズは、一人でも練習できますが、二人以上いないと演奏できません。上に挙げた例のどれをとっても一人ではできないですね。

人の出す音をリアルに受け止め自分も反応する。これこそが“ジャズ”なのです。

これから幾つもの練習用資料、アイデアを提供していきますが、大切なのはこれらを、ゆっくり、いい音で、吹いていて気持ちよくなるまで自分流にこなしていくことだ、ということを最初に知っておいて下さい。それを成しえるのに一番手っ取り早いのは、いい音で気持ちよさそうに吹いている一流ミュージシャンのプレイを“楽しんで”聴くことに他なりません。

聴いては吹いて、吹いては聴いて、これを繰り返すうち、全く謎めいた、魔法のようなジャズフレーズも実はスケールとコードアルペジオ、プラス少々、ということに気付く筈です。

これから掲げる譜例等は、過去のジャズ・ミュージシャンから収集されたものばかりですので、ジャズを聴けばすべて聞こえてきますし、音楽が全てを話してくれます。

ジャズは、わかってくるまでが結構時間を要します。ですが、いったんわかり始めると、これ程面白い音楽は他にないことがよくわかってきます。その面白さは、どんなに素晴らしいロールプレイングゲームにも、麻雀にも、もちろん競馬・パチンコなどにも上回ります。これらの娯楽にお金を費やすよりも、おいしい食事をしたり、いい買い物をしたり、と、自分自身に投資したほうが価値がある、と考え始めたら、それはもう、すっかりジャズにハマっている、といっても過言ではないでしょう。もともとそういう考えの方は、もともとジャズに向いた性格と言えますので、大いに練習に励んでください。

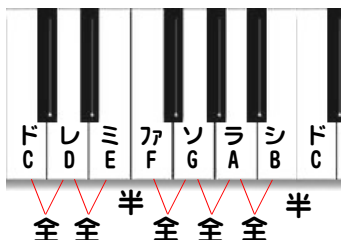
第一章 ジャズとスケール

ジャズに限らず音楽の90%以上はスケールと分散和音の組み合わせで出来ています。そして和音もスケールの上に重なって出来たものです。つまり、スケールを覚えれば音楽の90%覚えたことになります!!ここでしっかりと覚えましょう(とはいえ、あとの10%が難しいんですけどね…)

§ 1. まずはメジャースケールの仕組みから知ろう!

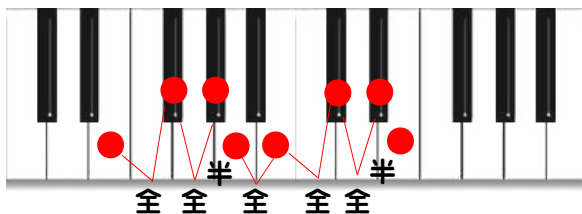
スケール(Scale)という文字を辞書で引くと、「定規」「目盛り」「音階」など出てきます。英語では、定規も音階も同じ単語なんですね。
スケールをひも解いていくと、なるほど、と思います。解説していきましょう。

C Major Scaleを鍵盤で見えていきましょう。



左図で、V印が付いたところには黒鍵がはさまっています。この関係を「全音(Whole Tone)=2半音」といい、そうでないところを「半音(Half Tone)」といいます。つまり「ド(C)」から始まって、
全音 全音 半音 全音 全音 全音 半音
と移動すると8番目にまた「ド(C)」に戻ってくる、と認識して下さい。

この法則を使って今度は、試しに「ミ(E)」からメジャースケールを追っていきましょう。



どうです?実際に鳴らしてみるとちゃんとメジャースケールの音になりますよね。つまり、メジャースケールとは目盛りを
2・2・1・2・2・2・1
と切った変則の「定規」である、ということです。

宿題1.

鍵盤を使って、「ド」から「シ」までの12箇所から始まるメジャースケール全て弾いてみて下さい。ゆっくりで構いませんが、なるべく間違えないように!

(答えはP4に記載)

§ 2. サックスで全てのクロマチック・スケールを吹こう!

鍵盤を使ってメジャースケールを弾く場合は、音程差が目に見えるのでわりと簡単でしたがこれが肝心のサックスの場合、吹いている最中に指を見るわけにもいけへんしドナシヨウ、ということになります。どないしたらいいもんか、考えていきましょう。

全音は、2半音、でしたね。メジャースケールは全音と半音で出来ているわけですから、まずは半音音階(クロマチック・スケール=Chromatic Scale)をしっかり練習することによって、メジャースケールの練習が格段に楽になります。

余談ですが、Chromaticは、彩り、色彩、という意味もあり、スルスル演奏できるようになると、あなたのアドリブフレーズにパーっと花が咲くこと間違いなし、です!
次ページの譜例をよく練習しましょう!

半音音階の練習

最初は ♩ =60 から始めていつの日にか ♩ =240 で出来ますように！

The image displays 12 staves of musical notation, each representing a different key signature for a half-tone scale exercise. The keys are: C, Db, D, Eb, E, F, F#, G, Ab, A, Bb, and B. Each staff contains a sequence of notes, with accidentals (sharps, flats, and naturals) indicating the half-tone intervals. The exercises are designed to be played in a continuous, flowing manner, with the 9th note of each scale being the point of return.

- それぞれのキーで、メジャースケール上の9番目の音まで行って折り返すのがポイントです。
…今後何かとこの“9”因みに、ナインス(9th)と呼びますが、コイツがよく出てきますので、以後お見知りおきを。
- 慣れてきたら、C~Eの1オクターブ上と、B・Bbの1オクターブ下も練習メニューに加えて下さい！
- さらに慣れてきたら、タンギングのシラブルを「ドゥダドゥダ」(基礎編P12参照)と演奏します。
そして、テンポが200を越える辺りからは「ドゥ」のところをタンギングせずに「ウーダウーダ」とやります。これらが、レガート・タンギング、というやつです。

§ 3. メジャースケールの仕組み（続）

半音音階がみっちり練習できたところで、いよいよスケール練習です。と行きたいのですがその前にもうちょこっとスケールの仕組みの解説。

右の図をよくご覧頂きたいのですが、上から順番に見ていくと、スケールの出現順がC/G/D/A/E/B/F#(Gb)/Db(C#)Ab(G#)/Eb(D#)/Bb(A#)/Fであることをまず読み取ってください。そして、全ての間が3全音 1半音(7半音)であることを確認して下さい。この音の幅を、完全5度(Perfect 5th)といいます。

次に、下から読んでいくと、その音幅は2全音 1半音(5半音)であることがわかると思います。この幅を完全4度(Perfect 4th)といいます。

同じ音同士でも下からと上からでは音幅が違うんですね。

実際に「ド→ソ」と「ソ→ド」を吹き比べると、その響きの違いははっきりと分かるのですが「コード」の話になるとそれらを一緒にする傾向があります。

特にジャズはそうで、基本的にCのコードをドミソと弾こうがソドミと弾こうがプレイヤーの自由、という感じですので、5th(4th)などと表現されます。

。。。話が段々ややこしくなってきましたけどメゲずにしっかり読んでくださいね。。。。

ややこしいのに「ド→ソ」が5度で「ソ→ド」が4度。1オクターブ(ド→1つ上のド)は8度。。。5たす4は9やないか!! 8なんておかしいやろ!!

勘のいい人はすぐに気付きますが、悪い人は未だに気付いていないに違いありません。

「ドレミファソ」で5度「ソラシド」で4度「ドレミファソラシド」で8度。

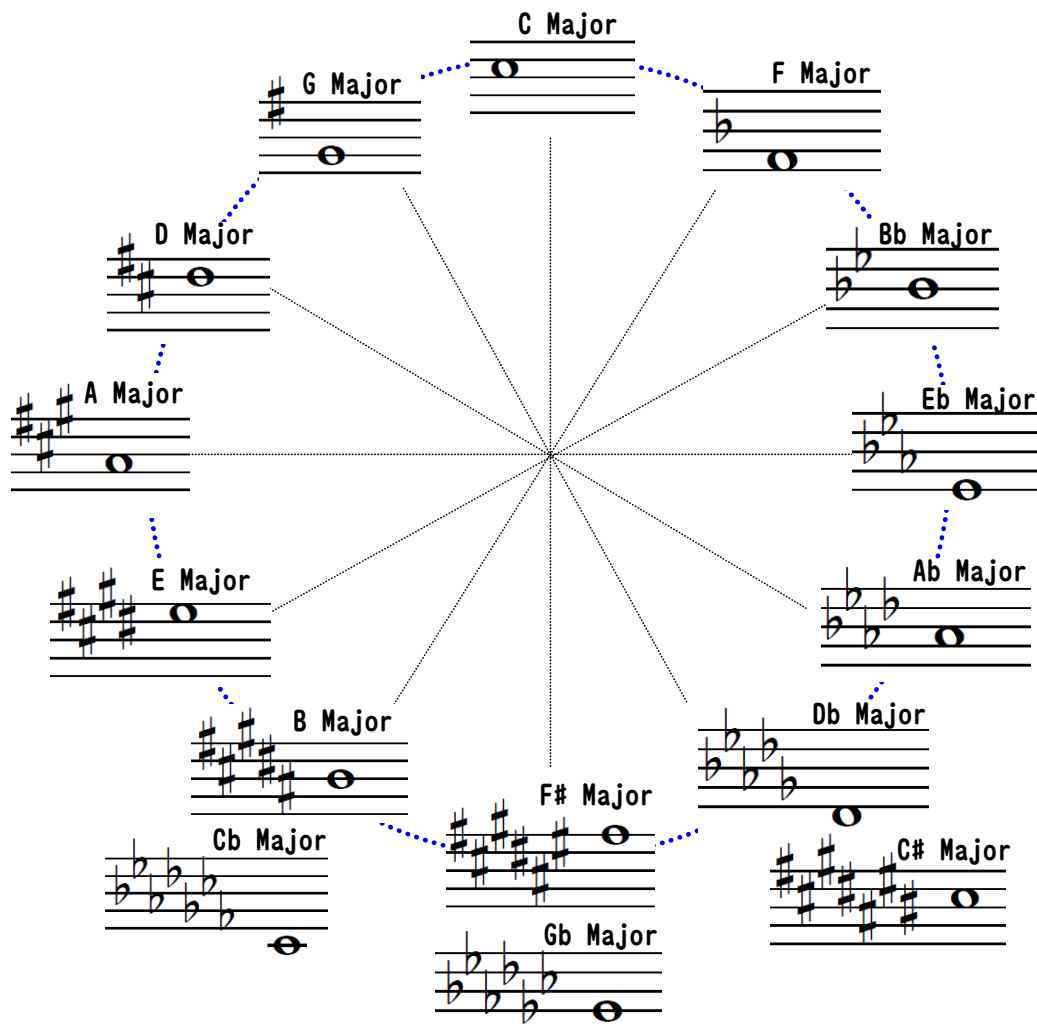
そうです「数え」なんです! 始まりを「1」とするので、1つダブる訳です。

右図の解説に戻ります。もう一度上から見ていきましょう。スケールの始まり音が5度上がる度に、#が1つつ増えていきます。増える場所はいつも各スケールの7番目の音で、1度付いた#は消えません。逆に、下から見ていくと、5度下がる度にbが4番目と5番目の間に順序良く付け加えられるのがわかると思います。

右図を円にすると下図のようになります(音符は各調の始まり音=ルート音)。左回りは鍵盤の上から、右回りは下から見ていきましょう。スケールの種類は12ですが、調号は15種類あります。練習していった、どちらかやり易い方で覚えればいいでしょう。

Cycle of 5th

どこからスタートしても13番目には元に戻ってくる音楽の仕組みを表した図です。他にも様々な意味を含んでいます(次ページ参照)。



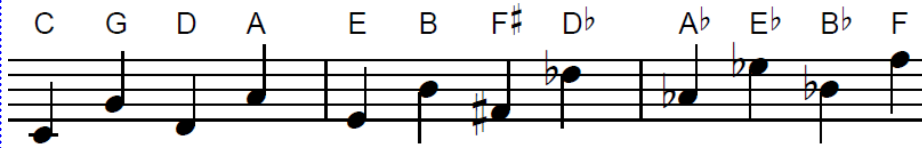
宿題1. の答え ※この図を見ると、スケールの前半、後半がぶついているのがよくわかると思います。上がっていく時はいつも最後から2番目だけ半音上がり、下りは5番目だけが半音下がるのがわかります。

さて、せっかくサイクル(循環)の表が出てきましたので、これについても説明しましょう。
なかなかスケールの練習に行けませんがここは、サイクルだけに「急がば回れ」。。。

表のそれぞれのルート音(始まり音)を、ある一定の規則(12の約数で感じ)で見えていくと、色々なサイクルが出来上がります。ここではその一部始終を見ていきましょう。

まずは左回りに1つづつルート音を拾っていくと下図のようになります。

Perfect 5(4)th Circle左回り(5度スケール)



ヴァイオリンなどの開放弦がこの音列です。音列を指癖にしておくとう便利。例えば楽譜に♯が5個も付いていたとしても、指が覚えていけばすぐに、シ(8)から始まるスケールだ、と分かるようになります。

同様に、右回りに1つづつルート音を拾っていくと下図のようになります。

Perfect 5(4)th Circle右回り(4度スケール)



ギター・ベースなどの開放弦が主にこの音列です。左回りと同様に音列を指癖にしておくとう便利。これでb系も完璧!?

次に、表を左回りに1つ飛ばしで見えていきましょう。下図のように2種類出来上がります。

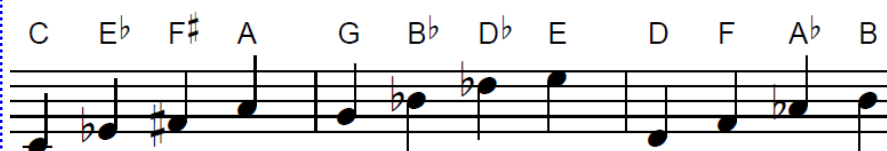
Whole Tone 2 Combinations(ホールトンスケール)



全音音階といって、文字通り全ての音幅が全音で出来ている音階です。詳しい言及は今は避けますが、指癖にしておくとう超便利。各音から1オクターブ上下出来るよう練習して下さい。

同様に、右回りに2つ飛ばしで見えていきましょう。下図のように3種類出来上がります。

Diminish 3 Combinations(ディミニツシスケール)



短3度音階といいます。不安を増長する様なこの音列は、古くは18世紀頃から様々な作曲家に愛用されてきました。勿論ジャズでも効果バツグン!! 全音と同様に練習して下さい。

今度は左回りに3つ飛ばしで見えていきましょう。下図のように4種類出来上がります。

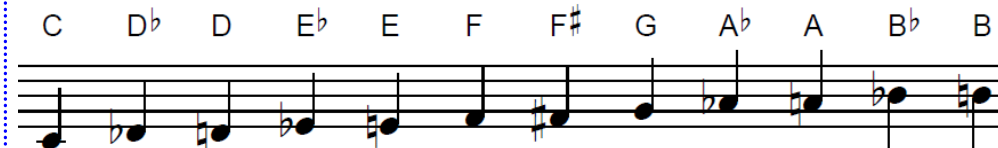
Augment 4 Combinations(オーギュメントスケール)



長3度音階といって、ドミソのソの音が半音上がった状態です。全音の1つ飛ばしとも解釈できます。ちょっと難しいですが同様に頑張りましょう!!

4つ飛ばしで見るとなんと、こうなります!(これだけは5と12の最小公倍数で、60番目に帰ってきます)

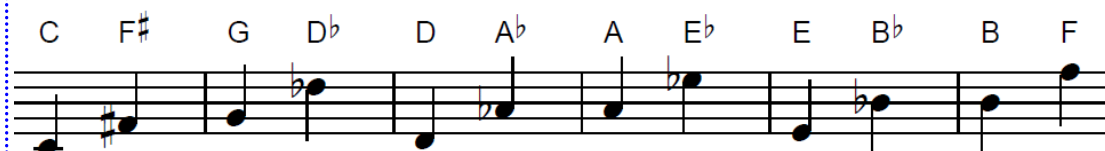
Chromatic(クロマチックスケール)



この事実を発見した時、12平均率とはなんてロジカルなんだ!と思いました。

最後に、5つ飛ばしで3全音が6ペア出来ます(短3度の1つ飛ばしとも解釈できます)

Tritone 6 Combinations(トライトーン)



裏音・トライトーン・増4度・減5度とか呼ばれます。不安定な関係と認識しておいて下さい。

説明はこれくらいにして、いよいよメジャースケールの実践練習です。まずは次の譜例をご覧ください。

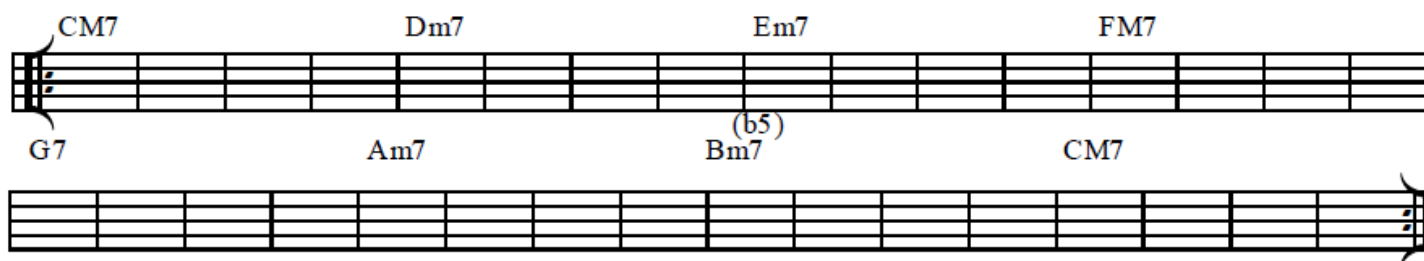


これは、C Major Scale (ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ド)を、1小節ずつ配置し、それぞれの音をルート(始まり)として、その上にスケール上の3度音程(ひとつ飛ばし)で3つの音を積み重ねてきた表です。このように、一度に2つ以上(この場合4つ)同時に演奏する音を「和音」といいます。中でも、3つ以上の音が集まったとき、ほとんどの場合「コードネーム」を付ける事が出来ます。コードの仕組みについては後に解説しますが、この場合は4つ(4声といいます)で、次のようにコード付けが出来ます。



このようにして出来た7種類のコード(和音)を「ダイアトニックコード」といいます。

練習ではこの、ダイアトニックコードを各スケール毎に4小節ずつ順番に進行させた伴奏(CD Basic...トラック2~13)を用いていきます。それではまず下の「トラック2」の伴奏譜面を聴きながら見ていきましょう。



上図は別表1.2「ダイアトニック・コード表」のなかの、Cの伴奏譜です。もう見方はわかりますね。これからの練習は、これらのコード表と、別表3.4の「練習例」を見ながら進んでいきます。…楽譜はこれ以上存在しません！練習例をヒントに、また、コードネームをヒントに、楽譜なしでこれらの練習をこなしていく旅になります。音符に頼った現在の「ドレミファ…」時代は終わり、これからは「CDEFGABC」時代へと突入していきます!!!
な〜に見慣れりや大した事ありませんって(^^)

次ページで練習方法を詳しく紹介します。

ダイアトニック・コードの度数について

ローマ数字ですが、度数という言い方をします。Iのことを1度、IIIのことを3度、Vのことを5度という具合に言い表します。3度音程で重ねるとという言葉が何度か出て来ていますが、1度と3度の間隔をみると、ひとつ飛ばしで重ねるという意味が理解できると思います。Cのダイアトニックコードを度数で表すと「C」を「I」として

I M7 II m7 III m7 IV M7 V7 VI m7 VII m7 (b5) と表すことが出来ます

度数で置き換えられたコード名ですが、IM7は「イチドメジャーセブン」あるいは「イチメジャーセブン」、II m7は「ニドマイナーセブン」あるいは「ニマイナーセブン」などという言い方をします。他のコードも同じ要領で言い表します。ローマ数字(度数)は数学の変数みたいなものです。Keyが変わるとルートが変わります(別表1~2参照)。それぞれのダイアトニックコードの音名の部分が変数を入れ替えるように変化します。

度数は変数だと言いました。ということは、コードネームの後半部分、頭の音名以外の部分はKeyがいくら変わっても不変であることを意味します。つまり、CDを聴いて練習をする際は今吹いている部分のコードがダイアトニックコードの何度にあたるコードなのか、そしてこのダイアトニックコードのコード構成音は何と何なのか、というようなことを意識して頭と指と感覚に擦り込んでゆくことが上達の近道なのです。

このことはスケールワークやコードワークのみに恩恵を与えるものではありません。アドリブソロの発想の基礎にもなりますし、作曲・編曲の基本でもあるのです。楽器の練習は音楽の法則を見つけてゆく旅でもあります。日々の練習の中で新たな発見をした時の興奮は今でも忘れません。仮にそれがすでに理論書に書いてあることだったとしても、その感動は心に刻まれ身に付いていきます。

§ 4. ダイアトニックの練習（練習例_スケール編①～④／CD Basic...2～13）

まずは譜面台に別表1（ダイアトニック・コード表）と3（練習例_スケール編）をそれぞれ左と右に並べ、両方の左上から見ていきます。CDの準備もいいですか？

CDを再生すると、トラック1.チューニングの後、“C”の伴奏が始まります。4小節のイントロの後、5小節目の頭から演奏開始です。「ド～」と表記してありますが、前述の通り、これはもう“C”の音として認識します。。！つまり、CM7の場所でCの音を3小節と3拍伸ばす、と読みます。Dm7以降も同様です。どうです？簡単でしょう?? ???
まずはこの練習をトラック2～13全てでやる。のが理想ですが、時間のない人は毎回3.4個ずつやっていけばいいでしょう。

この練習①の目的は、

- ・音をしっかり3小節と3拍（15拍）伸ばす
- ・4分休符の内きっちり半拍分を吸気に用い、残りは次の音の為のスタンバイ時間とする（基礎編P13譜例の2段目参照）
- ・コードのルート音に対して俊敏に反応する
- ・なるべく10本の指を離さずに練習する
- ・アタックとリリース（基礎編P13～14参照）をしっかりとやる
- ・音を一定に保つ…など、結構色々なことを同時進行します！また当然、ロングトーン代わりにもなるので、いつも同じ音程でなく、今日は一オクターブ上で、とか、なるべく全ての音域を鳴らすように自ら毎回工夫しましょう。Bb～F#までは2オクターブ出ますからねえ。

続いて、練習例②を見ていきましょう。今度は「ダイアトニック」の練習です。
ダイアトニックとは、前述の、ダイアトニック・コードのもとになる音階（スケール）のことです（次ページに解説）。簡単に言いますと、それぞれのスケール上の音をルート音から順に8回かけて1オクターブ上まで上がる、という練習です。

練習例③は、②の応用で、より実践的なものとなります。

1拍目の休み（この間に息を吸い、スタンバイします）の後、7拍かけて下のルートから駆け上がり、3小節目頭から4小節目終わりにかけての8拍で上ルートから下ルートまで下降します。「倍速で2回」というのも譜例にしてみました。

CM7



==練習の進め方==

まずはこの、スケール編①～④の練習を、12のキー(調・調号)で演奏できるようにします。
やり方としては2通りで、1つの練習例に対して12のキーを順番にやる方法と、
1つのキー(CDトラック)に対し、4つの練習が全てでき上がった次は次のキー、というやり方です。
どちらの練習法をとるかは自由ですが、いつも同じやり方しかないのは好ましくありません。その
日の状態、気分次第に「練習の前に」事前に選択していくのが良いでしょう。

なお、この時点ではまだ、前項に記した練習③④の「応用」については出来なくても全然大丈夫で
す。こちらは気長にチャレンジして行って下さい。

ダイアトニックとは？

ダイアトニックを日本語でいうと「全音階」です。
1つのキーのメジャースケールには7つのダイアトニックコードが存在します(P6参照)。これらのコ
ード音の間(2.4.6番目)を飛ばさずに演奏すると、練習例②になります。それぞれに名前がついてい
ます。

I M7=Ionian Scale (アイオニアン)
II m7=Dorian Scale (ドリアン)
III m7=Phrygian Scale (フリジアン)
IV M7=Lydian Scale (リディアン)
V 7=Mixolydian Scale (ミクソリディアン)
VI m7=Aeolian Scale (エオリアン)
VII m7b5=Locrian Scale (ロクリアン)

12のキーそれぞれにこの7種類のスケールがあります。つまり、 $12 \times 7 = 84$ 種類の音階があっ
て、これらを総じて「ダイアトニック(全音階)」と呼びます。

§5. ダイアトニックの練習(練習例_リズム編①～⑭) / CD Basic...2 13 / 別表5～9)

さあ、それでは次に練習例_リズム編を見ていきましょう。

①～⑭全てに言えるのは、4小節で一単位のリズムパターンである、ということです。
練習の際にはまず、これから練習するリズムパターンをしっかりと「記憶」してから演奏することが大
切です。そして、リズムを「読む」という感じではなく「出す」感じで表現しなければなりません。

①～⑥でまず、しっかりと「出す」練習をします。ここまでの練習で、伴奏を聴きながら音に乗せて
いく、という感覚を味わうことが出来たなら、⑦以降はこれらの応用ですから簡単です。それが適わ
ない人は、この感覚が理解できるまでみっちり繰り返し練習することをオススメします。急ぐことは
ありません。やり続ければ必ず音が「乗って」きます!その日を信じて練習しましょう!!

==「8分アタック」をCDで練習しよう!!==

別表5～9の「8分音符単位のリズムアタックトレーニング」は、メトロノーム君相手に黙々と練習を重
ねるのも手ですが、どうしても飽きてしまい、なかなか気持ちをクリエイティブな方向に持っていき
ません。そこで考えたのが、この中からランダムに4つのパターン(4小節分)を選び、書き出して、覚
えて、伴奏に乗せる。という練習です。

4～5 ATTACKS辺りは結構難しいので最初は、2.3.6 ATTACKSぐらいからチョイスしてやってみて下さ
い。超難しいのが出来てしまうときもありますが、そういうのはとっておいて後日挑戦してみるのも
手です。あくまでもリズムに「乗る」練習ですから、簡単なものから確実に出来るようにしましょう!

==練習の進め方==

リズム編の練習は毎回少しずつ取り入れるようにしましょう。こればかりやっても飽きてしまい
ますので、日々のスケール練習の合間にちょっと挟んで。そのとき練習していたキーの続きでリズム
編も少し導入する、といった感じでも良いでしょう。

==リズムのコピーにも挑戦しよう!==

ジャズのCDを聴いていると、普通の4ビートの曲はベースが「ボンボンボン…」という感じで4
分音符を刻んでいます。曲によっては「ボーンボーンボン…」みたいに変な弾き方をしているのが
あります。こういう曲を見つけて、まずはベースのリズムパターンをコピーしてみましょう!
別にジャズにこだわる必要はありません。昔の歌謡曲辺りでも結構面白いリズムパターンがあります
ので、色々見つけてチャレンジしてみてください!!

§6.ダイアトニックの練習（練習例_スケール編⑤～⑦／CD Basic...2～13）

さあ、ここからはいよいよ「3度音階(分散和音)」にチャレンジしていきます。

⑤と⑥はいわゆる、3度スケール、と呼ばれるものです。冒頭にも書きましたが、現代までの楽曲の約90%が、これとスケールを組み合わせたメロディーです。＃や♭が増えてくるとだんだんイヤになってきます(!)面倒がらずに書き出して、最初はメトロノームでゆっくり練習し、早くできるようになったらCDと合わせ、楽譜を見ずにやれるように、といった感じで進めていきます。何度もいいますが「ゆっくり確実に」が上達の秘訣です！

下の楽譜は、⑤と⑥をドッキングして倍速にした譜例です。これが、この練習の本質です。

CM7



応用として、次の譜例にもぜひチャレンジしてみてください！

CM7



⑦の練習は、コードトーン(④の練習)に9th(ナインス)を付け加えたものです。

難易度が急上昇しますが、20世紀以降の音楽を語るのに必要不可欠な存在です。

詳しくは後の「テンションノート」の頁で説明しますが、ここでは、コードトーンに引付いたもう1つオマケのだんご、として認識して下さい。

以下の3つの譜例はこの応用です。

4倍速で4回ずつ

CM7



左右を逆に

CM7



リズムの応用



まとめ

ここまでの内容を深く理解し、覚え、演奏できるようになるには、週に3, 4日みっちり練習できたとしても約半年かかります。しかも、今後も継続的に練習し続けないとすぐに忘れます。それほどスケールとは奥深く、厄介なものなのです。しかしそれ故、いつもキチンと演奏できる状態を保っていれば、演奏者にとってこれ程心強いものも他にありません。聴こえてくるほとんどの音楽はスケールと分散和音なので、スケールを理解していればいるほどそれは、きちんとした音程で聴こえてきます。例えば…

海外に移り住む羽目になった人が、最初路頭に迷いつつも、3, 4か月ぐらいうると突然相手の話が聞けるようになり、半年もすると普通に会話できるようになるといいます。でも、帰国するとすぐに忘れちゃうそうです。これと同じようなものです。

少しずつでも出来るだけ毎日練習して下さいね。。！

§7. 「特選 日本の童謡」を 楽譜なしで演奏しよう! (CD Basic...14/別表10~11)

この練習の本質は、耳を鍛えること(イヤ・トレーニング)です。
これまで散々スケールを練習してきましたが、それを実践で発揮できなければ何の意味もありません。音楽の基本は「歌う」こと。な～に、音痴でもかまいません。ただ、カラオケとかと違い、音符を見ながら「独唱」するのです。下の「里の秋」の譜例で説明していきましょう。

まず、譜面を見て歌う前に、この曲はC Majorの曲であることを覚えておきます。因みに「もみじ」「赤とんぼ」「ふるさと」は同様にC Major、「母さんの歌」「月の砂漠」「赤い靴」はA minor、「蘇州夜曲」は、G Majorです。なぜそうなのかは置いて、とりあえず覚えておきましょう。

まず、Cのコード音「ド～ミ～ソ～」と、ゆっくり歌います。音程に自信がないときは、実際にサックスで「ド～ミ～ソ～」と吹いてから発声するといいいでしょう。この時発声した音程をよく覚えておいて下さい。

曲は「ソ」から始まっていますので、そのまま、最後に出した音から歌い始めます。歌詞は階名で歌います。最初慣れない内は「ソ～ミラソミレ…」でいいでしょう。慣れたら今度は「G～EAGED…」に挑戦します。さらに、「5～3 6 5 3 2…」にも挑戦していきます。「C」を「1」と考えた歌い方です。因みに、A minorの曲の場合、Aが「1」ではなく、あくまでもC Majorの6番目のダイアトニック「エオリアン(P8参照)」と考えるので、Aは「6」になります。下の譜例ではこの「音階番号」による歌詞(?)を付記しています。



この練習を、最終的には楽譜なしで行っていきます。
出来るようになった頃には相当音感が鍛えられている筈です!

Q. でも、楽器を吹くだけだったらベツに「ドレミ」でいいんじゃないのお～?

A. ごもつともです。でも、音階番号で覚えることによって、あらゆるキーへの「転調」がものすごくラクにやれるのです!! 「1」の部分の音を自分の吹きたいキーに合わせ、あとは相対的に変化させるだけでホラ、あっという間に転調できます。これこそ今まで苦労してスケール練習をしてきて手に入れた「賜物」なのです!!

コラム 「全音」という名のややこしい奴

これまでの音楽用語の中に「全音」というのが3つ出てきました。「全音符」「全音」「全音階」どれも同じ「全音」という字なのに意味が全然違いますよね。おさらいしてみると、

「全音(休)符」は4拍分の長さ(=Whole Note)

「全音」は2半音分の音程(=Whole Tone)

「全音階」は、メジャースケールから成る7つの音階(=Diatonic Scale)

でしたよね。ごっちゃにならないように整理しておきました。もうこれ以上無いのでご安心を。

まったく、、まあちつとマシな表現はないもんですかねえ。。

§ 8. アドリブについて考えましょう(CD Basic...15.16.29.30/別表24~27)

==ジャズの正しい演奏法って何!?!==

ジャズはもともと、自由な表現形態であり、そこに「正しい演奏法」なんて存在するのでしょうか??

<時代に合わせた表現法>

ジャズは長い歴史を持っており、その時代毎に様々なジャンルにさらに細かく分類できます。ニューオーリンズ・ジャズ や ディキシーランド・ジャズ から始まり、スイング・ジャズ、ビバップ、モダン・ジャズ、モード・ジャズ、フリー・ジャズなどに発展していきました。

最近では、「これ、本当にジャズなの??」っていう、現代的なものまで出てきました。さて、このように、様々な時代の変遷をたどってきたジャズですが、「その時代時代で適した表現方法」はあるかもしれませんが、「これが、正しい演奏法だ!!」なんて言い切れるものなんて存在しないと思いませんか??だって、そうしたら、みんな同じ演奏することになりますよね。大ざっぱに言えば、それではクラシックと変わらないじゃないですか!!

<気持ちをぶつけられればいいんじゃない?>

とにかく私が言いたいのは、まったく同じように吹く必要はないってことです。アドリブでも、メロディーでも、私は、「気持ちを音に乗せればすべてよし!!」だと思います。色々な制約に縛られては、気持ちを乗せることも、面白いものもできません。確かに、理論を学ぶことは重要です。ジャズ演奏への近道になるかもしれませんが、手数(アドリブするときに見本とするフレージングなど)を増やすことで、自分の表現の幅が広がりますからね。でも、逆に、理論に縛られ、自由な演奏が、実際自由にならなくなったら、それはもうジャズとは呼べないのではないのでしょうか?怖いのはそこです。

<実践あるのみ!>

ですから、私が思うのは、「とにかく吹きまくってみる!」ってことだと思います!そして、その中で、おしゃれに聴こえたり、自分の意図していたものと一致するフレーズ、吹き方が見つかったら、メモしておきましょう。録音しておくのもいいですね。「このコードのときはこの音を中心に吹いてみよう」とかね!そうやって、ネタをためていき、ここぞとばかりに用意しておいた吹き方やフレーズを使ってみましょう!アドリブだったら、そのネタ帳に、「盛り上げ」「終焉」「停滞」なんて題名をつけて分類しておくといいかもしれませんね!それともうひとつ、最初っからカッコよくなんて、吹けるはずありません!大切なのは、実践し続けること、つまり、テキトーに吹き続けることなのです。

「千里の道も一歩から」
「継続は力なり」
「切磋琢磨」
「一蓮托生」

どれも、ジャズのためにある言葉のような気がするのは、、私だけですな。。

音楽はフィーリング!
気持ち良ければすべてよし!

<昔の演奏から学ぼう!>

そうはいつでも、昔の人の偉業を無視してフィーリングに頼るのも、要領が悪い感じがしますので、常にフレーズの練習と、テキトーに吹きまくるのを、併用していきたいものです。とりあえず、Basic...のCDにある4曲(15,16,29,30)をやってみましょう。テーマ(楽譜)を吹き終わったらアドリブに突入、そして最後にもう1回テーマで締める、といった具合です。今の段階では、どんな風でもかまいません。ただ、伴奏をよく聞きながら吹く、ということだけがけてみて下さい。できれば録音して聴いてみる。思いがけずイカシタ「部分」がある筈です。メモっておきましょう!とにかく今は「習うより慣れろ」です。フレーズの練習は??...もうちょっと先です m(_ _)m

さあ、いよいよ初級の最後の仕上げです!でも、これがムズい。。!

§9.全ての音域でDiatonicを練習しよう！（CD Basic...17～28／別表12～23）

==まあだスケールやるのおお～？==

何をおっしゃいます！まだまだ始まったばかりですよ！

正直な話、この練習をクリアできると、かなりジャズは吹けるようになります。但し、実に奥深く、かくいう私も、練習のはじめはいつも、これです。もっとも、テンポはCDの1.6倍ですが。

実際に楽譜（別表12～23）を見ていきましょう。カナリヤバイ！！と思われるかもしれませんが、実際やってみると、今までの練習の総集編、みたいな感じです。
下の譜例をごらん下さい。



半音音階(P3)の頁でも少し触れましたが、レガートタンギングについて詳しく説明します。
この練習では、サクソの全ての音域をスムーズに演奏できるようにすると同時に、拍の表でテヌート、拍裏でアクセント、という独特なスタイルでの演奏を身につけていきます。
シャ～バドゥ～ビドゥ～ビウ～バ～、などと聞こえることから、この吹き方は業界で、シャバ吹き、ずびずび吹き、などと呼ばれ（正確には、レガート奏法）ていますが、名前はふざけていても、これができないと、サクソ奏者としての将来は無い、といっても過言ではないほど重要な吹き方です！
現代サクソ事情においてこの吹き方は、クラシック以外はとりあえず万能です。もちろん、これだけに頼ってはいけませんが、これができればあとの奏法は、驚くほど容易である事が、後にわかるでしょう。タンギングのイメージ(シラブル)としては「ドウ～ダウ～ダウ～ダウ～ダ」といった感じです。注意しなければならないのは、「ウ～」の時に最初は、どうしても喉が絞まりがちになるので、それは絶対にしてはいけない、ということです。
そしてもうひとつ！最初はメトロノームでゆっくり練習するのですが、これが大変！
メトロノームを、小節の2拍目と4拍目に鳴るようにセットして練習します！吹き方同様、これができないと、やはり、将来は明るくない、と、キツイ一言をあえて添えさせていただきます。

まずは、♩=60(メトロノームのカウントは30)ぐらいからはじめ、慣れてきたら徐々にメトロノームのテンポを上げ、最後に、楽譜を見ずに(!)CDと合わせられる様になったらとりあえず完成です。
CDの順番どおり練習を進める必要はありません。とりあえず自分の得意なキーからスピードアップしていてもいいですし、全部のキーを均等にスピードアップして、などなど、進め方は個人の自由とします。頑張りましょう!!!

==最後の仕上げ==

下の譜例をごらん下さい



最後は、1拍目の頭の音を前の4拍目の裏に置き換えて練習します。これによって一味もふた味も違うノリが出せる筈です！メトロノームだとこれまたムズい!!でも頑張って!!!

これをもちまして、当サクソ教室「初級」は修了になります。めでたくここまで来れた方、おめでとうございます！！次回からはやっとな「中級」コースです！！
次回からは、さまざまな「ジャズ語」を勉強していきます。がしかし、！これでスケールの魔の手から逃られるわけではありません。キーの半音上、下降、4度(5度)進行など、しばらくは、スケールを中心にした連続メニューです。・・・(≥ ㇿ ≤)・・・色んなフレーズもスケールの連続です。
結局のところ、どこまで行っても、スケール、ナンデスヨ。はっはっはっ(° 〇°) はっ！
Q.いつになったらアドリブ吹けるのよ～?! A.な～に、もう結構吹けてますっ!!

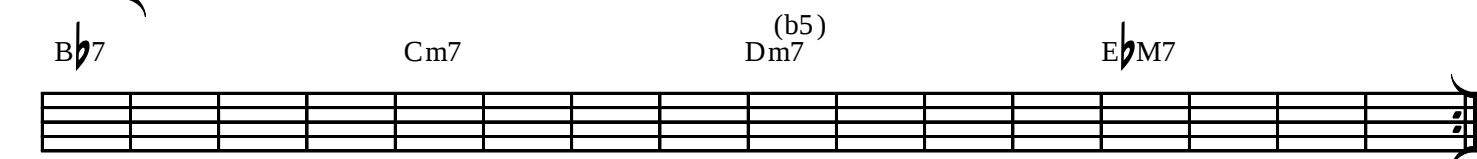
ダイアトニック コード表

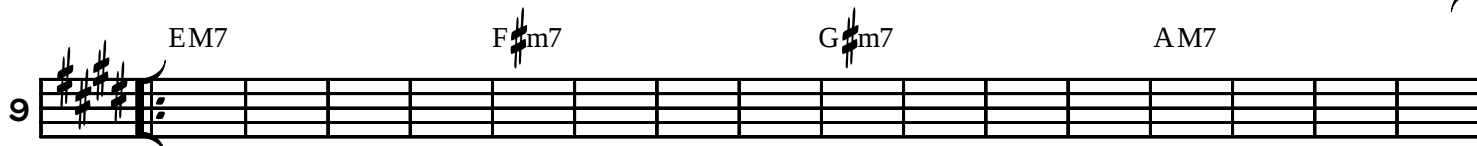
CDトラック番号

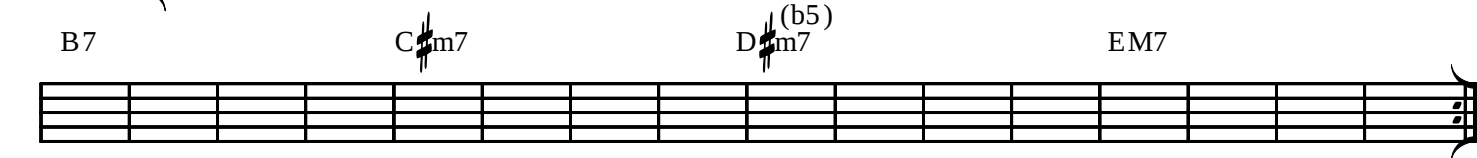
2	CM7	Dm7	Em7	FM7
	G7	Am7	Bm7 (b5)	CM7
3	GM7	Am7	Bm7	CM7
	D7	Em7	F#m7 (b5)	GM7
4	FM7	Gm7	Am7	BbM7
	C7	Dm7	Em7 (b5)	FM7
5	DM7	Em7	F#m7	GM7
	A7	Bm7	C#m7 (b5)	DM7
6	BbM7	Cm7	Dm7	Ebm7
	F7	Gm7	Am7 (b5)	BbM7
7	AM7	Bm7	C#m7	DM7
	E7	F#m7	G#m7 (b5)	AM7

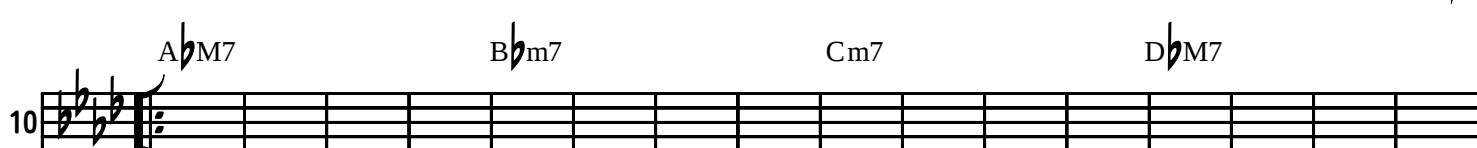
別表1

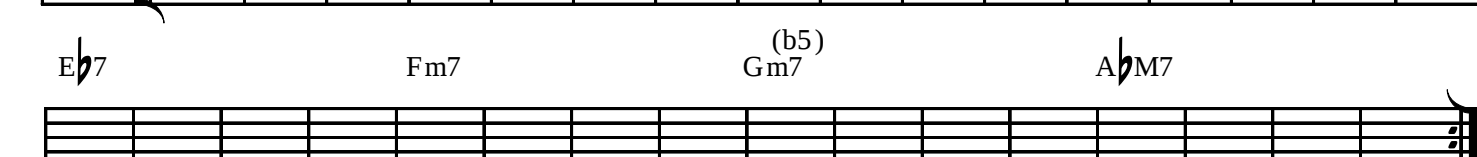
8 

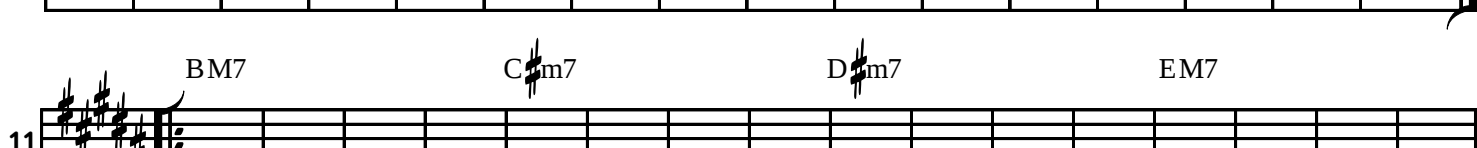


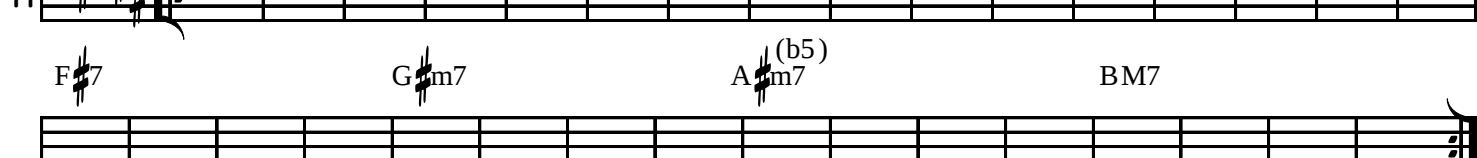
9 

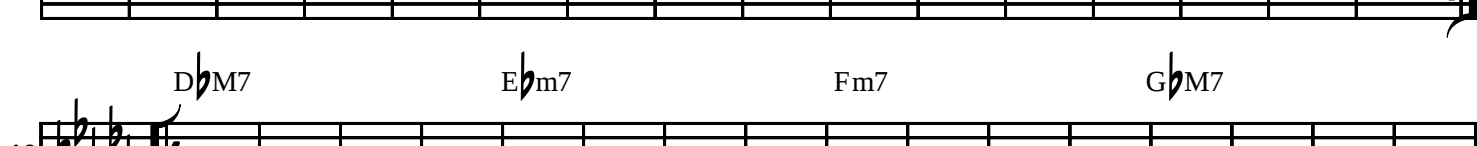


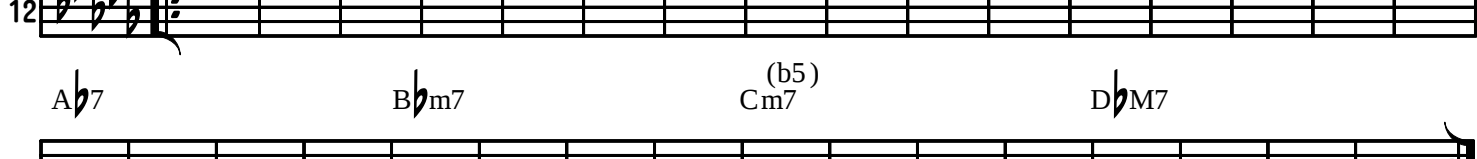
10 

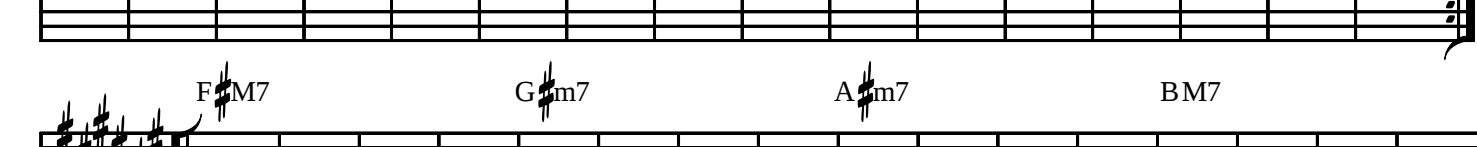


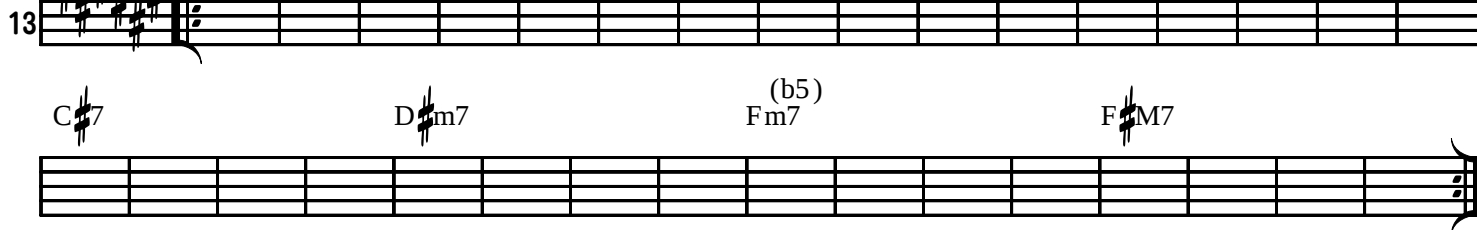
11 



12 



13 



別表2

ダイアトニックコード 練習例 ～スケール編～

①

CM7 Dm7

Em7 FM7

②

CM7 Dm7

Em7 FM7

③

CM7 Dm7

Em7 慣れたら倍速(8分音符)で2回ずつ吹きましょう! FM7

④

CM7 Dm7

Em7 慣れたら倍速(4分音符)で2回ずつ吹きましょう! さらに、4倍速(8分音符)で4回にも挑戦しよう!! FM7

⑤

CM7 Dm7

Em7 FM7

慣れたら⑤と⑥をドッキングして倍速で!

⑥

CM7 Dm7

Em7 FM7

⑦

CM7 Dm7

Em7 FM7

9thを含めたコードトーンの練習です。慣れたら④同様に 2倍、4倍でやりましょう!

ダイアトニックコード 練習例 ～リズム編～

CM7 まずはそれぞれの音符の長さの違いをはっきり Dm7 表現しましょう

①

CM7 音符と休符をきっちり吹き分けます Dm7

②

CM7 1拍と2拍のコンビネーション Dm7

③

CM7 Dm7

④

CM7 1拍と半拍のコンビネーション Dm7

⑤

CM7 Dm7

⑥

CM7 ①の応用です Dm7

⑦

CM7 From C Jam Blues Dm7 休みをリズムカルにとる練習です

⑧

CM7 Dm7

⑨

CM7 ジャズによくあるパターンが集約されています Dm7 めげずに根気よく練習しましょう

⑩

CM7 Dm7

⑪

CM7 From Blues Walk Dm7

⑫

CM7 Dm7

⑬

CM7 Dm7

⑭

8分音符単位のリズムアタックトレーニング

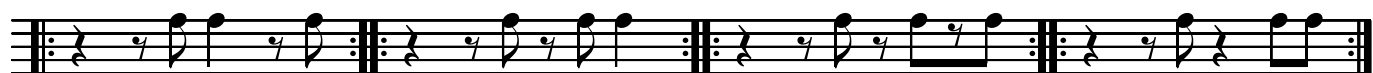
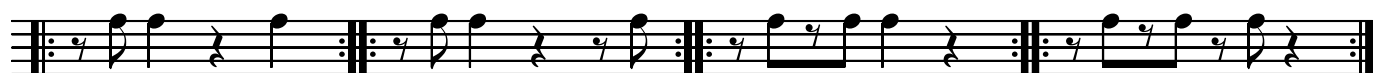
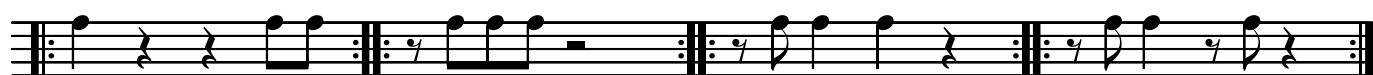
小節内で発音する1 Attack以外の全ての情報が含まれた練習です。
Swingyにやるのもいい練習になります。
メトロノームを2, 4拍目に鳴らして練習します。
16分音符も所詮これの応用ですので、頑張りましょう!!

2 ATTACKS



3 ATTACKS





4 ATTACKS

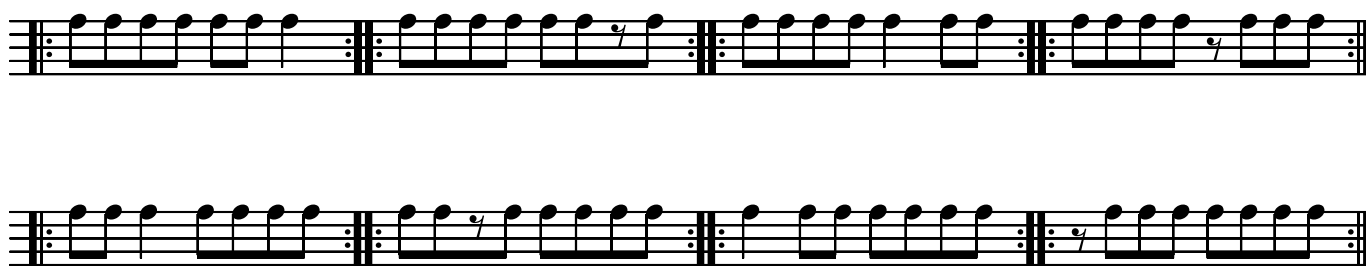




6 ATTACKS



7 ATTACKS



8 ATTACKS



1 ATTACK



特選 日本の童謡

もみじ



里の秋



母さんの歌



赤とんぼ



月の砂漠



月の砂漠



ふるさと



赤い靴



蘇州夜曲



Scale Diapason Approach ダイアトニックスケールを使ってすべての音域を鳴らそう!

CD - 17

C Diatonic Schale

CM7

Dm7

Em7

FM7

G7

Am7

(b5)
Bm7

CM7

CD-18



CD-19

F Diatonic Schale



CD-20

DM7

D Diatonic Schale



Em7



F#m7



GM7



A7



Bm7



C#m7 (b5)



CD-21



CD-22

AM7

A Diatonic Schale



Bm7



C#m7



DM7



E7



F#m7



G#m7 (b5)



AM7



CD-23

Eb Diatonic Schale

CO-23 Eb Diatonic Schale

Chords indicated above the staves:

- Staff 1: EbM7
- Staff 2: Fm7
- Staff 3: Gm7
- Staff 4: AbM7
- Staff 5: Bb7
- Staff 6: Cm7
- Staff 7: Dm7 (b5)
- Staff 8: EbM7

CD-24

E Diatonic Schale

The musical score consists of eight staves, each representing a different chord in the E major diatonic scale. The chords are: EM7, F#m7, G#m7, AM7, B7, C#m7, D#m7(b5), and EM7. The music is written in a single melodic line, likely for a diatonic harmonica, and features a consistent eighth-note rhythmic pattern across all staves.

CD-25

Ab Diatonic Schale



CD-26

B Diatonic Schale



CD-27

Db Diatonic Schale

DbM7

Db Diatonic Schale

Em7

Fm7

Gbm7

Ab7

Bbm7

(b5)
Cm7

DbM7

CD-28

F#M7

F# Diatonic Schale



G#m7



A#m7



BM7



C#7



D#m7



(b5)
Fm7



F#M7



BLUE BOSSA

Am Dm7

Bm7b5 E7#9 Am

Cm7 F7 BbM7

Bm7b5 E7#9 Am Bm7b5 E7b9

AUTUMN LEAVES

The musical score for "Autumn Leaves" is presented in G major, 4/4 time. It consists of ten staves of music, each with a specific chord progression indicated above the staff.

Staff 1: Dm7, G7, CM7, FM7

Staff 2: Bm7b5, E7b9, Am, A7b9

Staff 3: Dm7, G7, CM7, FM7

Staff 4: Bm7b5, E7b9, Am

Staff 5: Bm7b5, E7b9, Am

Staff 6: Dm7, G7, CM7, FM7

Staff 7: Bm7b5, E7b9, Am, Gm7, C7

Staff 8: FM7, Bm7b5, E7b9, Am

MY ONE AND ONLY LOVE

CM7 Am7 Dm7 G7 G[#]dim Am7 FM7 Em7 A7

Dm7 Bm7b5 E7 Am7 D7 1. Dm7 G7

Em7 A7 Dm7 G7 2. Dm7 G7 CM7 F[#]m7b5 B7

Em7 C[#]m7b5 F[#]m7 B7 Em7 C[#]m7b5 F[#]m7 B7

Em EmM7 Em7 A7 Dm7 E^bM7 A^b7 G7

CM7 Am7 Dm7 G7 G[#]dim Am7 FM7 Em7 A7

Dm7 Bm7b5 E7 Am7 D7 Dm7 G7 CM7 (Am7 Dm7 G7)

COFFEE RUMBA

Em

Em Am7

Am7 Em

Em B7 Em

Am7 D7 GM7

Am7 D7 GM7

F#m7b5 B7

Em

Em Am7

Am7 Em

Em B7 Em